

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 7年6月 30 日

川崎市長 殿

提出者

住 所 神奈川県川崎市川崎区扇島1番地1

氏 名 JFEスチール株式会社 常務執行役員
東日本製鉄所 京浜地区所長 杉岡 正敏
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 044-322-1312

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)	自主管理事業登録番号 (3028)	
事業場の所在地	神奈川県川崎市川崎区扇島1番地1	TEL(連絡先): 044-322-1312	
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	E22-鉄鋼業 (具体的には) 2211-高炉による製鉄業		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	181,891 百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載してください。)		
③ 従業員数	1309		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入	別紙1の通り		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	
別紙2の通り	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
① 現状	【前年度(令和6年度)実績】 産業廃棄物の種類数 11 種類 * 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。 ① 排出量 140,046.9 t
	(これまでに実施した取組) 製鉄所から発生する物質は、スラグやダスト等多岐にわたっています。 製鉄所ゼロウェイスト活動として、 ①自社から発生する副生物を製鉄所内(他地区含む)でリサイクルすること ②副生物の利用技術を開発し、地域社会で資源として有効利用してもらうこと の2つの方向から活動を進めています。
② 計画	【(令和7年度)目標】 産業廃棄物の種類数 11 種類 * 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。 ① 排出量 74,151.7 t
	(今後実施する予定の取組) 中長期的には、資源の有効活用の観点に立った廃棄物の排出及び処理と資源のリサイクルとが一体になった循環型システムのより高度な実現を目指します。 廃プラスチック類については、梱包材の再利用やペットボトルの有価売却による排出抑制及び再資源化の取り組みを行っているが、今後も継続し分別の徹底により再資源化を継続推進する。 2023年9月の上工程休止に伴い製鉄所内での鉄源リサイクルができなくなったため、廃棄物処理の際は資源化処理先を優先的に検討することとしています。
産業廃棄物の分別に関する事項	
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	東日本製鉄所(京浜地区)では再資源化システムのもとスラグやダスト等の多岐にわたり発生するリサイクル原料及び廃棄物をホッパーやピット等で分別回収を行うとともに、一般廃棄物の分別も精力的に行っています。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	2023年9月の上工程休止に伴い製鉄所内での鉄源リサイクルができなくなったため、廃棄物処理の際は資源化処理先を優先的に検討することとしています。今後は従来の分別をさらに強化することで、高資源化率を継続します。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	62,752.0 t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
② 計画	(これまでに実施した取組)	製鉄所から発生するスラグはセメント原料や路盤材として100%の再生利用が行われています。ダストは鉄分の多いものは製鉄原料として、それ以外はセメント原料として99%以上の再生利用が行われています。 また、廃棄物の処分委託量の約50%を熱回収事業者へ処分委託し、廃棄物の熱回収を推進している。	
	【(令和7年度)目標】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	28,500.0 t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)	2023年9月の上工程休止に伴い製鉄所内での鉄源リサイクルができなくなったため、廃棄物処理の際は資源化処理先を優先的に検討することとしています。 今後は従来の分別をさらに強化することで、高資源化率を継続します。	
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
② 計画	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)	産業廃棄物の自ら処理(中間処理)はありません。	
	【(令和7年度)目標】		
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)	産業廃棄物の自ら処理(中間処理)はありません。	

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t
	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。		
	(これまでに実施した取組)		
	産業廃棄物の自ら処理(埋立又は海洋投入)はありません。		
② 計画	【(令和7年度)目標】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t
	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。		
	(今後実施する予定の取組)		
	産業廃棄物の自ら処理(埋立又は海洋投入)はありません。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	⑩ 全処理委託量	77,294.9	t
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	35,046.9	t
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	14,205.0	t
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	2.3	t
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	38,534.7	t
	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。		
	(これまでに実施した取組)		
	<p>製鉄所から発生する物質はスラグやダスト等多岐にわたっています。</p> <p>製鉄所ゼロウェイスト活動として、自社から発生する副生物を製鉄所内でリサイクルすることを第一優先としていますが、製鉄所内でリサイクルできなかった副生物は、資源としての有効利用を前提に産業廃棄物の中間処理委託を実施しています。</p> <p>また、廃棄物の処分委託量の約50%を熱回収事業者へ処分委託し、廃棄物の熱回収を推進している。</p>		

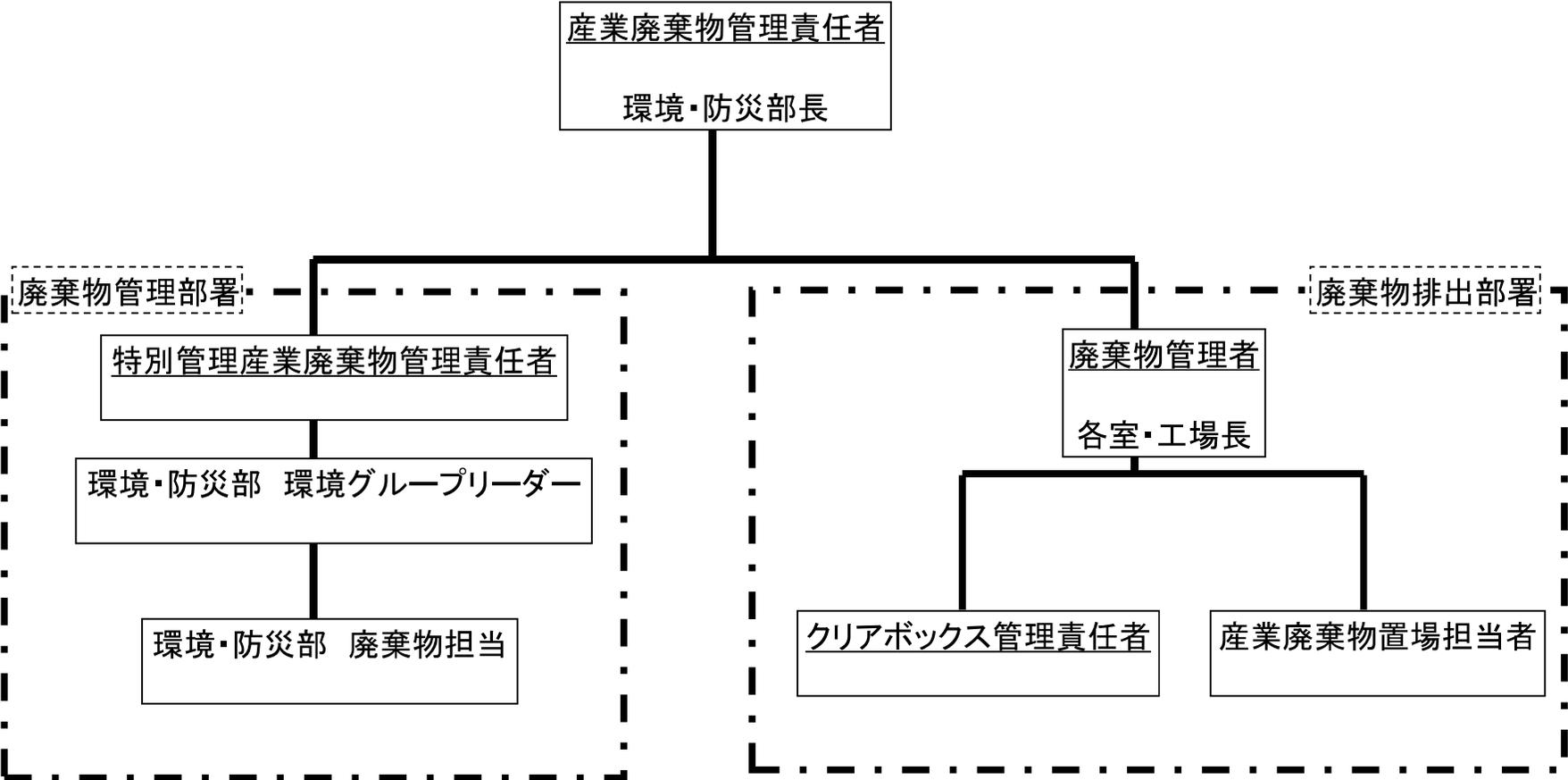
② 計画	【(令和7年度)目標】		* 種類ごとの本年度 処理委託量は、別紙の とおり。
	⑩ 全処理委託量	45,651.7 t	
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	17,523.4 t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	14,106.8 t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	1.2 t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	19,273.7 t	
	(今後実施する予定の取組)		
	2023年9月の上工程休止(高炉、製鋼など)に伴い、休止養生関連対応による廃棄物が継続して発生するが、2025年度前半で在庫解消見込みのため、中間処理委託量は昨年から約半減する予定である。		
※ 事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度(令和6年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和6年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和7年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

廃棄物管理組織

別紙2



産業廃棄物処理計画書

2-1 法定 自主
○

別紙一括表

事業場名称: JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

(単位:トン)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	合計
	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	鋳さい	がれき類	動物のふん尿	動物の死体	ばいじん	混合廃棄物のほほ	
① 排出量		40,362.5	2,716.4	18.2		1,470.3		116.5					13.0	120.1	46,962.0	6,041.3			40,887.3	1,339.3	140,046.9
②+⑧ 自ら再生利用を行った量		11,500.0	0	0		0		0					0	0	44,972.0	0			6,280.0	0	62,752.0
⑤ 自ら熱回収を行った量		0	0	0		0		0					0	0	0	0			0	0	0
⑦ 自ら中間処理により減量した量		0	0	0		0		0					0	0	0	0			0	0	0
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量		0	0	0		0		0					0	0	0	0			0	0	0
⑩ 全処理委託量		28,862.5	2,716.4	18.2		1,470.3		116.5					13.0	120.1	1,990.0	6,041.3			34,607.3	1,339.3	77,294.9
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量		26,707.5	1,084.5	18.2		1,374.2		116.5					13.0	100.1	0	5,288.8			0	344.1	35,046.9
⑫ 再生利用業者への処理委託量		6,841.0	2,246.8	17.2		1,100.2		116.5					0	120.1	1,990.0	435.4			0	1,337.8	14,205.0
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量		2.3	0	0		0		0					0	0	0	0			0	0	2.3
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		3,090.2	469.6	1.0		365.1		0					0	0	0	0			34,607.3	1.5	38,534.7
① 当該事業場における排出量		25,931.4	1,358.2	9.1		735.1		58.2					6.5	60.1	25,000.0	3,020.6			17,303.6	668.9	74,151.7
※1 自社の他事業場からの搬入量																					
② 自ら直接再生利用する量		11,500.0													17,000.0						28,500.0
③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量																					
④ 自ら中間処理する量																					
⑤ ④のうち熱回収を行う量																					
※2 自社の他事業場での処理量																					
⑥ 自ら中間処理後の残さ量																					
⑦ 自ら中間処理により減量する量																					
⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量																					
⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量																					
※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量																					
b 自ら中間処理後の処理委託量																					
b-1 中間処理委託量																					
再生利用前委託量																					
最終処分前委託量																					
下水等放流前委託量																					
b-2 最終処分委託量																					
B 直接処理委託量		14,431.4	1,358.2	9.1		735.1		58.2					6.5	60.1	8,000.0	3,020.6			17,303.6	668.9	45,651.7
B-1 中間処理委託量		9,734.9	1,358.2	9.1		732.6		58.2					6.5	60.1	8,000.0	217.7			17,303.6	668.9	38,149.8
再生利用前委託量		3,420.5	1,123.4	8.6		550.1		58.2						60.1	8,000.0	217.7				668.2	14,106.8
最終処分前委託量		6,314.4	234.8	0.5		182.5							6.5						17,303.6	0.7	24,043.0
下水等放流前委託量																					
B-2 最終処分委託量		4,696.5				2.5										2,802.9					7,501.9
⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量		14,431.4	1,358.2	9.1		735.1		58.2					6.5	60.1	8,000.0	3,020.6			17,303.6	668.9	45,651.7
⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量		13,353.7	542.2	9.1		687.1		58.2					6.5	50.1		2,644.4				172.1	17,523.4
⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量		3,420.5	1,123.4	8.6		550.1		58.2						60.1	8,000.0	217.7				668.2	14,106.8
⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量		1.2																			1.2
⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		1,545.1	234.8	0.5		182.5							6.5						17,303.6	0.7	19,273.7

別紙処理フロー

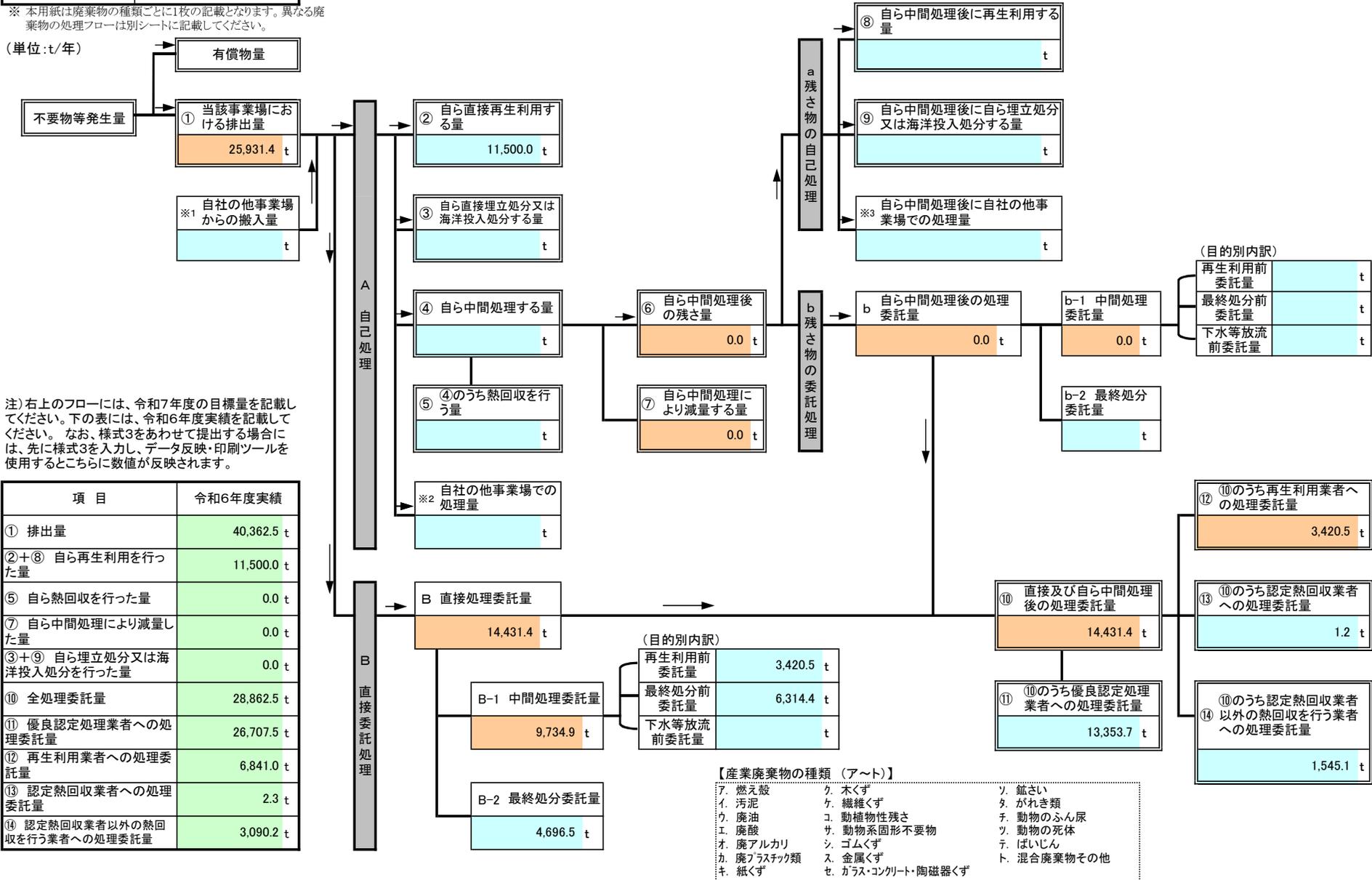
事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



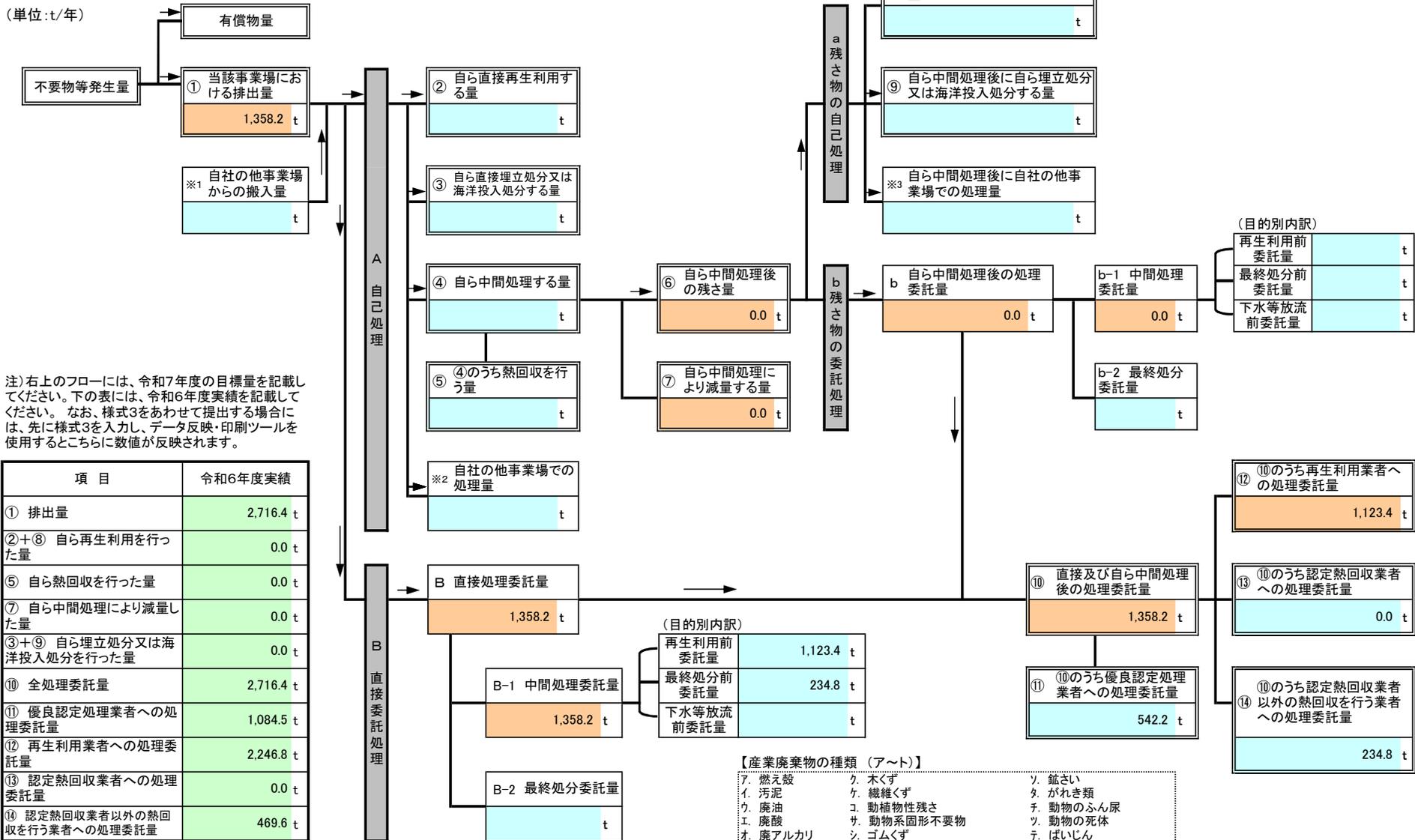
別紙処理フロー

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ウ. 廃油
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	2,716.4 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	2,716.4 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	1,084.5 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	2,246.8 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	469.6 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸くず
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

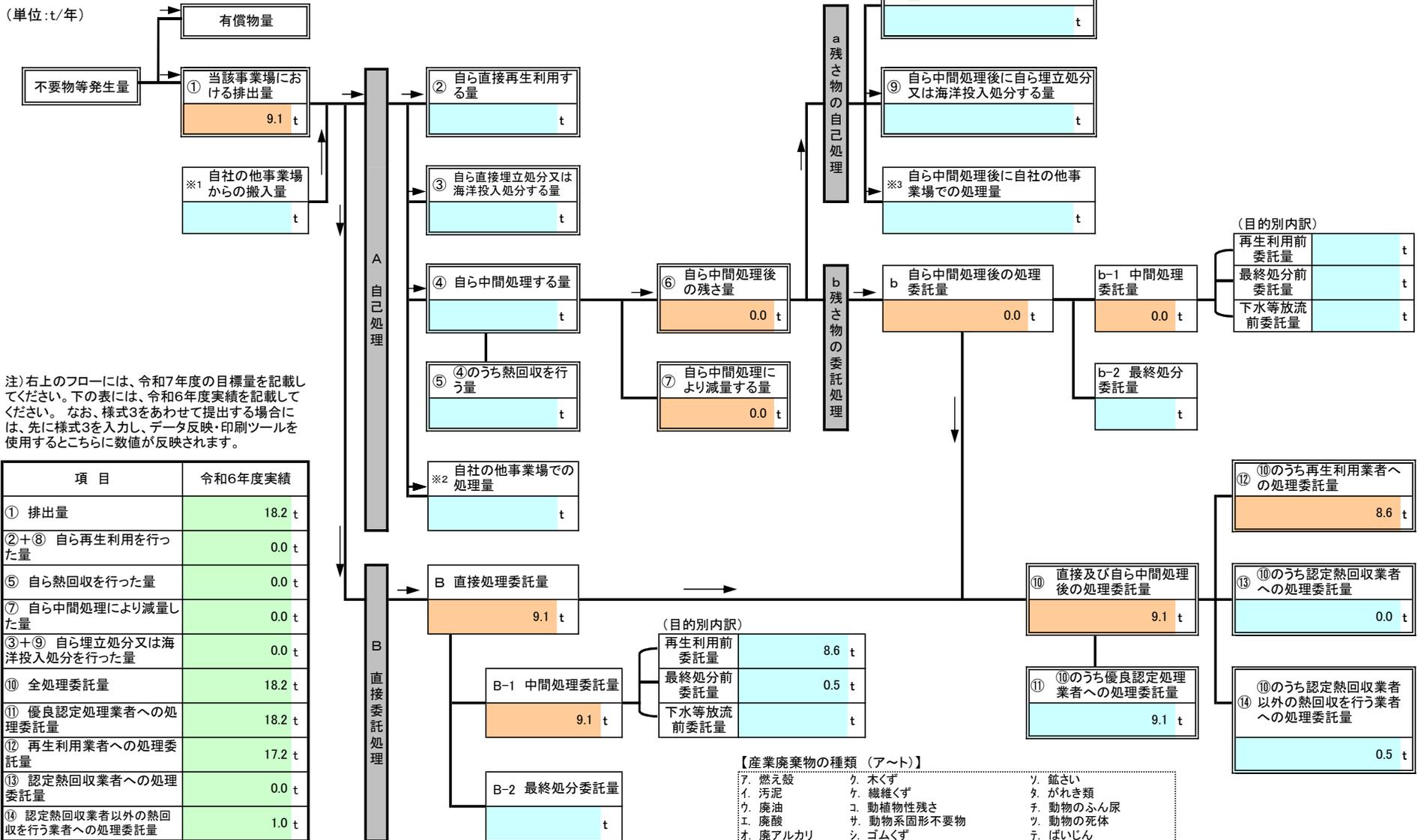
別紙処理フロー

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	工. 廃酸
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	18.2 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	18.2 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	18.2 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	17.2 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸くず
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(目的別内訳)

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

(目的別内訳)

再生利用前委託量	8.6 t
最終処分前委託量	0.5 t
下水等放流前委託量	t

⑫のうち再生利用業者への処理委託量	8.6 t
-------------------	-------

⑬のうち認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
--------------------	-------

⑭のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.5 t
-------------------------------	-------

別紙処理フロー

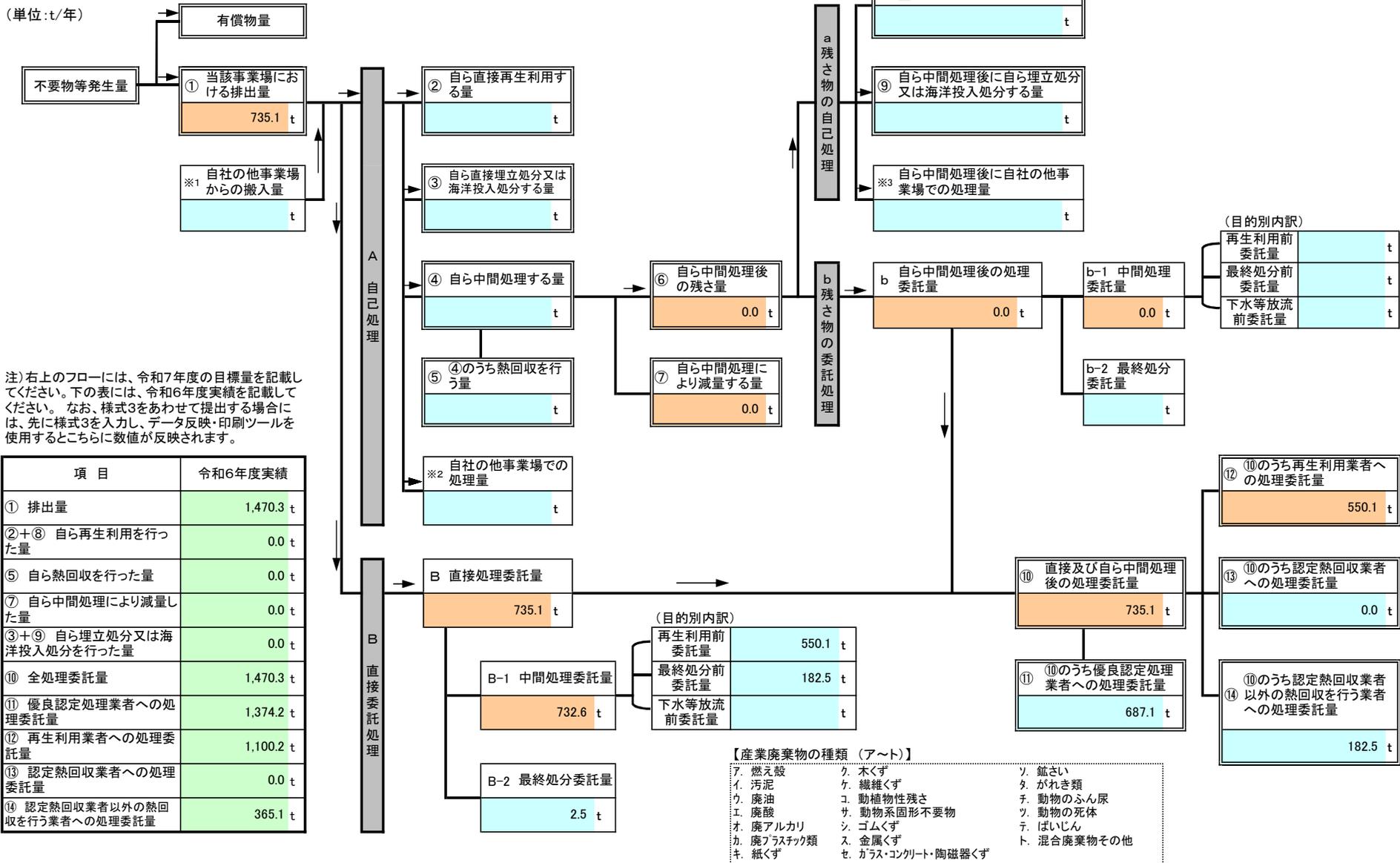
事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	カ. 廃プラスチック類
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	1,470.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1,470.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	1,374.2 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,100.2 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	365.1 t

別紙処理フロー

事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

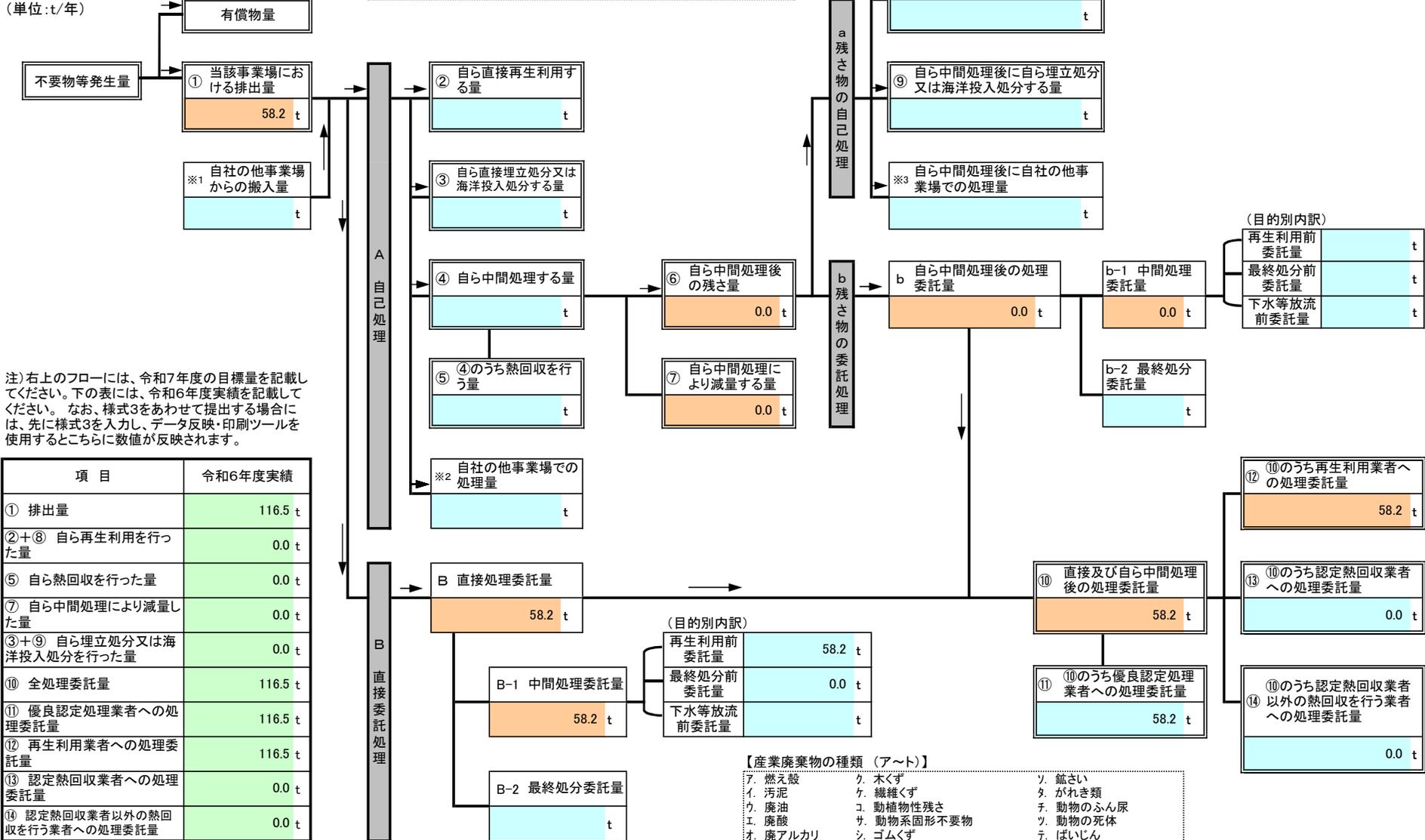
令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ク. 木くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

【木くず】には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び物品買貨業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)。
【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材を含む。)

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3を合わせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	116.5 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	116.5 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	116.5 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	116.5 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

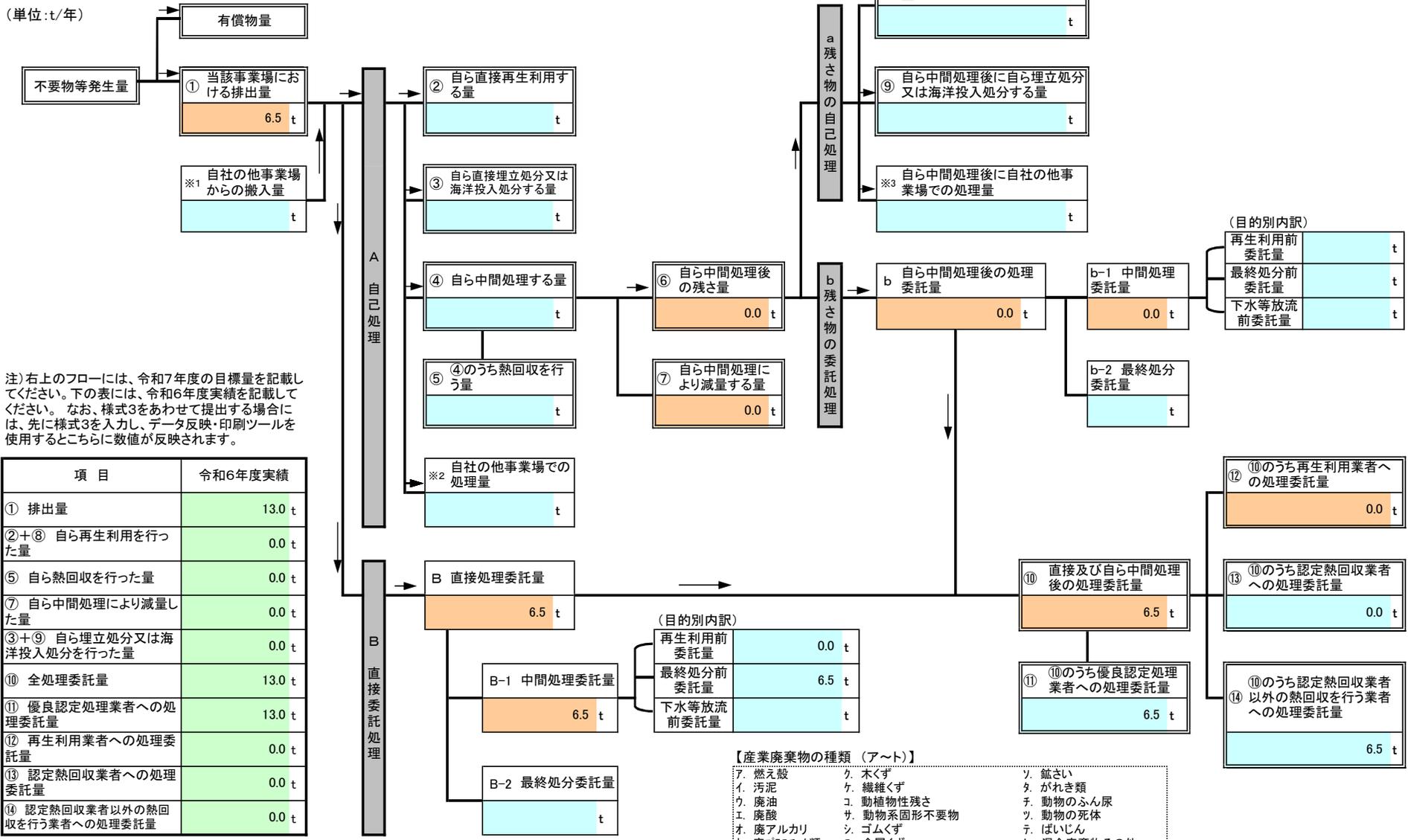
別紙処理フロー

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス、金属くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	13.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	13.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	13.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

別紙処理フロー

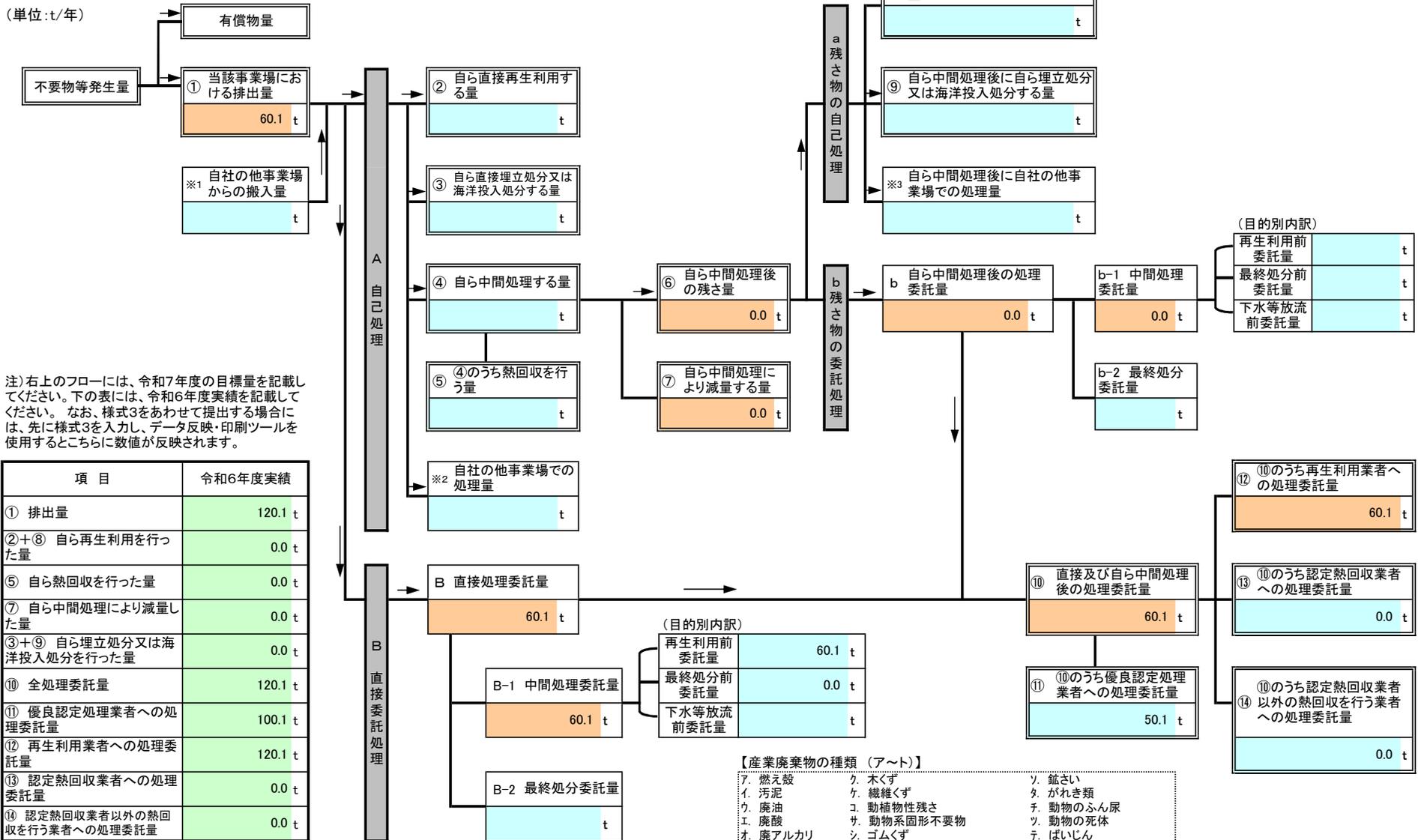
事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
------------------	---------------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

別紙処理フロー

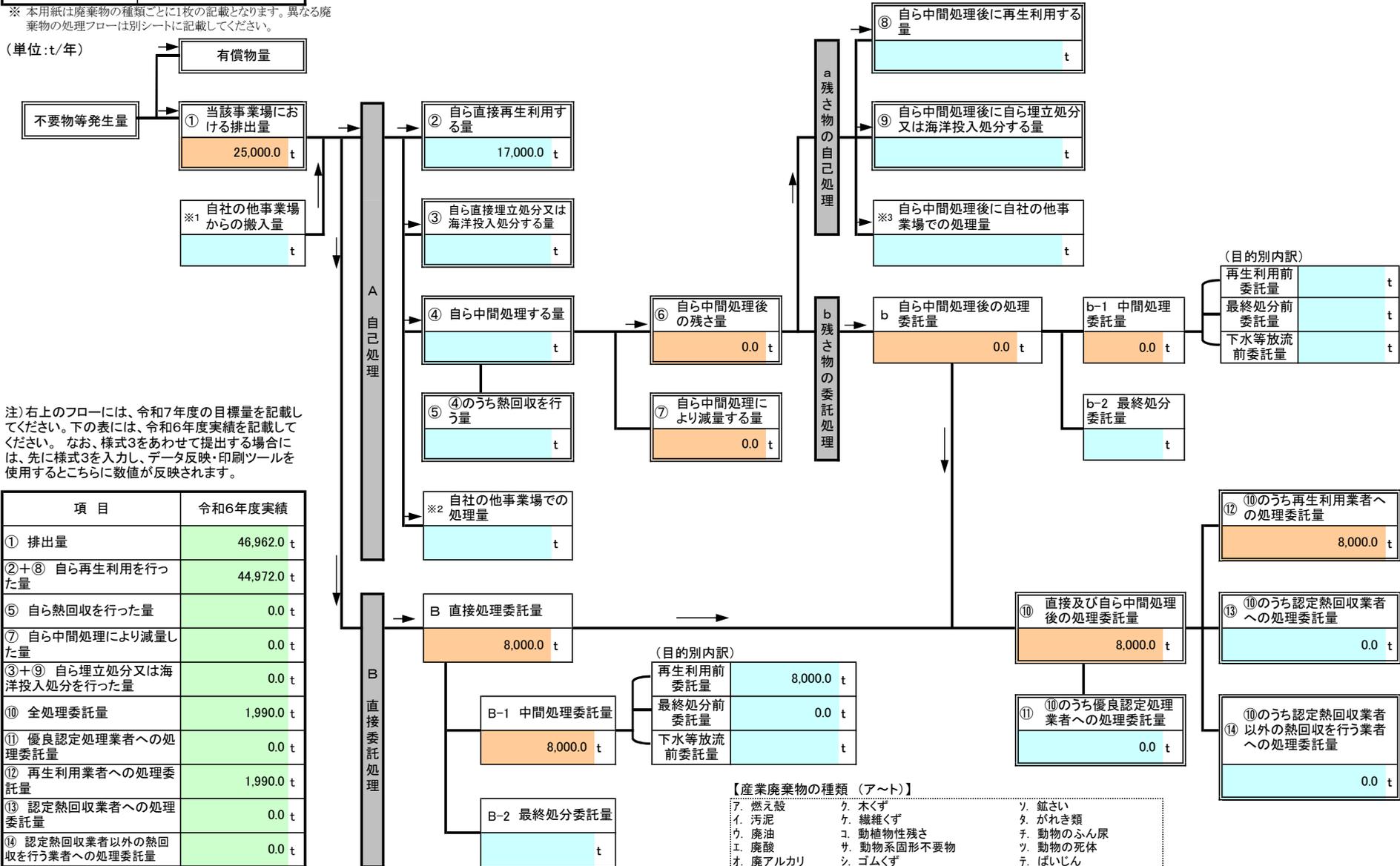
事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ソ. 鋳さい
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	46,962.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	44,972.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1,990.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,990.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋳さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(目的別内訳)

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

(目的別内訳)

再生利用前委託量	8,000.0 t
最終処分前委託量	0.0 t
下水等放流前委託量	t

⑫のうち再生利用業者への処理委託量	8,000.0 t
-------------------	-----------

⑬のうち認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
--------------------	-------

⑭のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t
-------------------------------	-------

別紙処理フロー

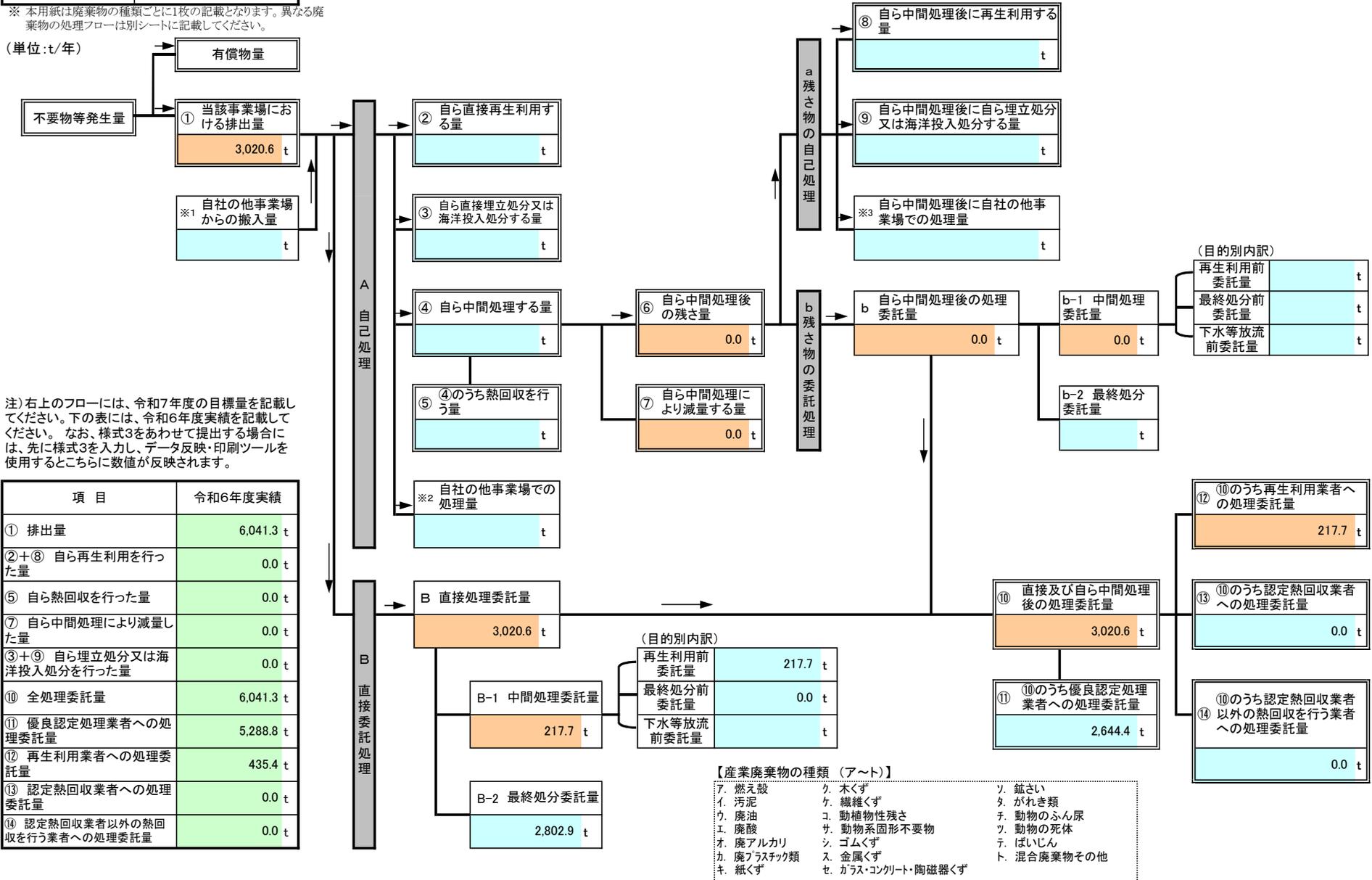
事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	タ、がれき類
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	6,041.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	6,041.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	5,288.8 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	435.4 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

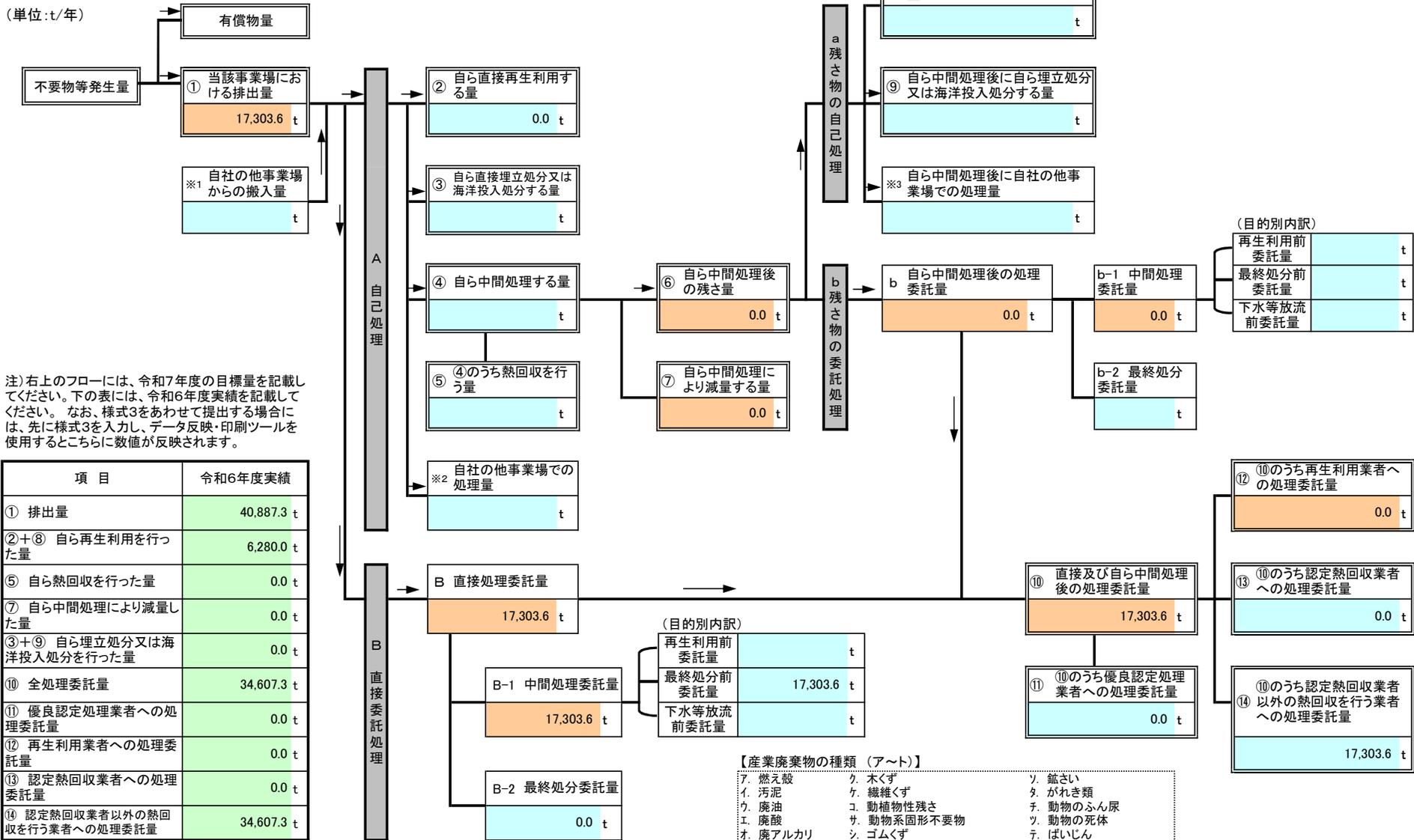
別紙処理フロー

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	テ. ばいじん
------------------	---------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	40,887.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	6,280.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	34,607.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	34,607.3 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(目的別内訳)

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

(目的別内訳)

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	17,303.6 t
下水等放流前委託量	t

⑫のうち再生利用業者への処理委託量	0.0 t
-------------------	-------

⑬のうち認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
--------------------	-------

⑭のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	17,303.6 t
-------------------------------	------------

別紙処理フロー

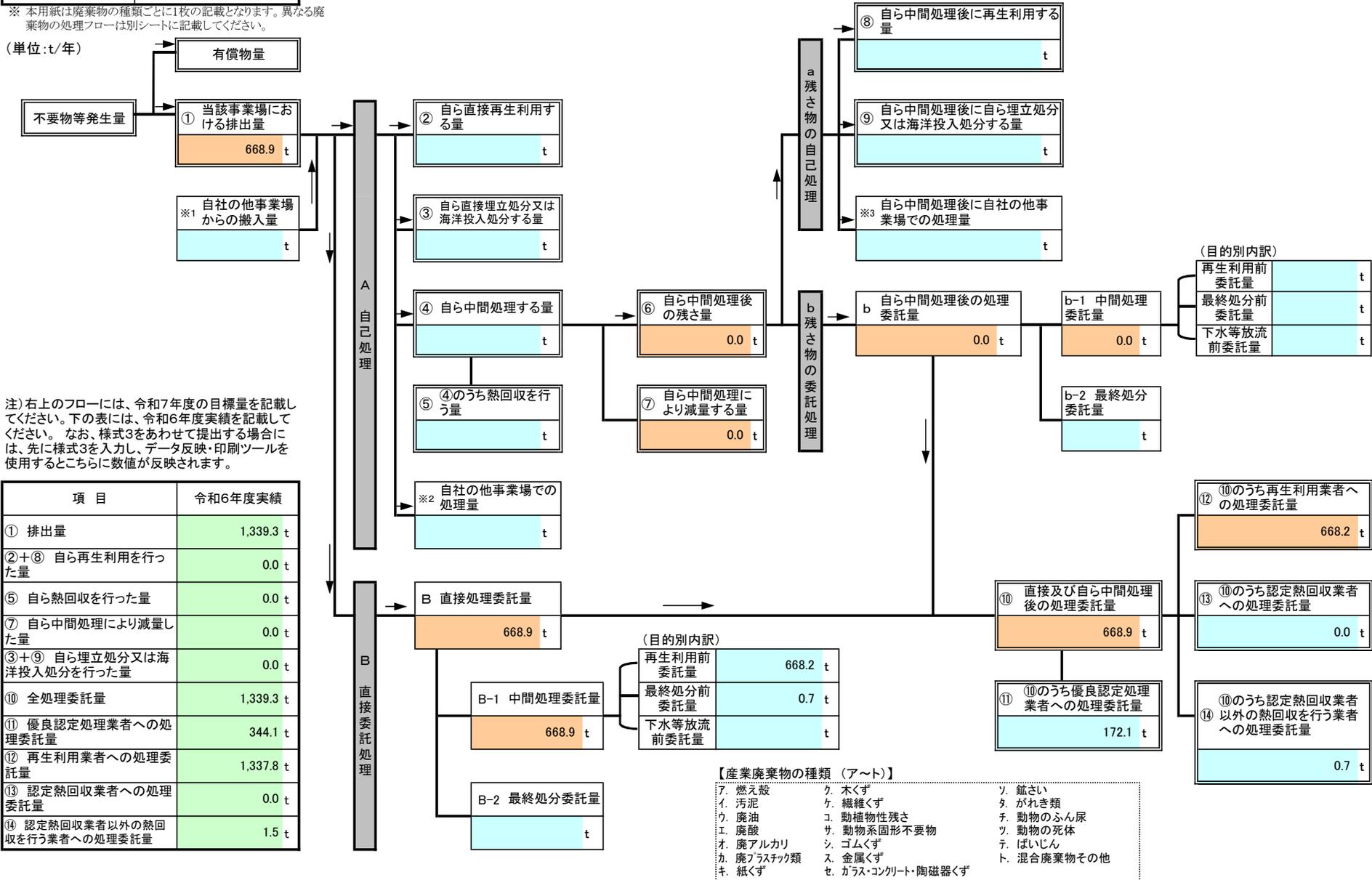
事業場名称 : JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト. 混合廃棄物その他
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	1,339.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1,339.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	344.1 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,337.8 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1.5 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鋸くず
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他